

1 施設の概況

全国でも 3 か所しかない女性更生施設の一つであり、交通の便のよい閑静な住宅街にあり、個室を中心とした落ち着いた生活環境を提供している。利用者の 9 割近くが精神疾患、知的発達遅滞、発達障がい等のメンタルの面の課題を抱え、その多くが婦人科、内科、整形外科など複数の疾病を併せ持つ。家族との断絶、子との分離を経て、自信喪失の状態でたどり着く利用者に対し、安心と自己肯定感を育む支援を行っている。

2 主要目標と取組

(1) 女性特有の課題へのきめ細やかな対応

虐待、性暴力、DV 被害による PTSD など女性特有の生きづらさや自己肯定感の低さを抱えて入所する者が多く、安全・安心な生活環境の提供ときめ細やかで丁寧な対応による「生きる力」の回復に向けた支援を行う。自立支援計画は利用者とともに作成する過程を重視し入所後 2 か月以内に策定し、標準的利用期間(10 か月)を意識した計画的かつ寄り添い型の支援を行う。

(2) 組織全体で支援する体制の継続

小規模施設の特色を活かし、利用者の日々の生活、体調の変化から支援の進捗状況に至るまで、常に職員間で情報共有を徹底し、担当指導員だけでなく栄養士、看護師も含めたチームアプローチを展開する。また、医療機関はもとより、家族関係調整のために児童相談所など多様な関係機関との連携を強化する。

(3) 所内作業と日中プログラムの充実

生活リズムの回復や生活意欲の向上を目的として、手芸品・ビーズ製品などの自主製作品「けやきブランド」を製作する所内作業と、ボランティアや企業の社会貢献事業の協力のもと、茶道・ヨガや美容講座など日中プログラムの充実を図る。

(4) 地元町会を中心とした地域との良好な関係の継続

年間を通じて町会行事に町会の一員として参加し、交流を深める。地域住民との良好な関係を今後も継続し、地域に根ざした施設運営を行う。

(5) 年間入所目標（対定員利用率）

定員	29 年度目標	28 年度目標	28 年度実績(見込)
30 人	45 人 (150.0%)	45 人 (150.0%)	55 人 (183.3%)

3 管理運営

(1) 日常の援助

- ①個別自立支援計画に基づいた利用者主体の自立を目指した支援の実施
- ②自分の力で生活行動を調整し、長所を伸ばす支援の実施
- ③外部の関係機関・社会資源との連携を強化し、生活力を回復させる支援の実施
- ④生活リズムの回復と生活意欲の向上に向けた所内作業と各種プログラムの実施
- ⑤就労支援、債務整理、家族関係等困難かつ複雑な課題整理のための専門機関の活用
- ⑥懇談会、担当者別懇談会、第三者評価等による利用者の意向を反映した施設運営

(2) 自立促進・転出促進

- ①社会復帰促進事業、通所・訪問事業を積極的に活用した地域生活移行と定着の支援
- ②ステップハウス(借上げアパート 2 室)における居宅生活訓練の実施
- ③グループホーム、救護施設、老人ホーム等の入所型施設への適切なコーディネート
- ④精神疾患を抱えた利用者への医療・精神保健福祉関係の各種社会資源との連携強化
- ⑤外部専門家をスーパーバイザーに招聘した事例検討会の実施

(3) 給食関係

- ①利用者の健康状態に合わせた安全で適切な食事の提供
 - ・個別栄養カルテの作成と活用
 - ・治療食、きざみ食、アレルギーへの対応
 - ・多彩な行事食や選択食の実施
 - ・食中毒防止等への積極的取組と食堂の衛生保持

②季節感を取り入れたメニューの充実

- ・心の安定につながる豊かな食事メニューの提供
- ・誕生日会食の実施

③居宅生活に向けた栄養指導（栄養教室の開催、調理実習の実施）

（4）諸行事

①歩行会 ②教養講座 ③花見の会（4月） ④町会夏祭り（8月）

⑤クリスマス会（12月） ⑥新春懇談会（1月） ⑦もちつき（2月）

⑧地域行事（ごみゼロデー、地域センター祭りでの自主製作品の出品等）

（5）消防・防災・防犯対策等

①自衛消防訓練（火災、地震、夜間等多様な場面を想定した訓練、月1回）

②地域防災訓練、避難所開設訓練等（利用者・職員ともに参加、9月）

③事業継続計画の整備・点検、非常用備品の定期点検と補充

④消防用設備、非常通報装置等の定期点検

⑤不審者・防犯対策として、防犯カメラ（3台）と門扉インターフォンにより外来者を常時確認するほか、夜間帯も宿直体制による定期巡回を実施する。

（6）職員会議等

①会議 朝の引継ぎ（毎朝）、職員会議（月2回）、給食連絡会（月1回）

②その他連絡会議 東社協の更生福祉部会や児童・女性福祉連絡会への積極的参加

③職員の育成 新人事評価制度を活用した人材育成、各種研修会・見学会への積極的参加

4 保健衛生・環境整備

（1）保健衛生

①利用者の健康回復と維持管理（生活歴・年代・疾患状況等の個別性に応じた支援）

- ・服薬管理利用者（入所者の約9割）の服薬状況把握
- ・嘱託医による健康相談

- ・定期健康診断
- ・インフルエンザ予防接種・健康教室（年10回）

- ・感染症対策及び個別健康相談
- ・看護師、栄養士連携による血圧体重測定（月1回）

②衛生的な生活環境の確保

手洗い・うがいの励行（随時）、入浴（週4回）、夏季シャワーの実施、

シーツ交換（月3回）、寝具乾燥（月1回）、防虫調査（年6回）、クリーンデーによる

居室及び共用スペースの点検整備（月1回）、居室及び共用部分の床清掃（年6回）

（2）環境整備

- ・朝の清掃実施による利用者の自主的居住環境美化整備

- ・建物、設備の適切な維持管理と迅速な修繕対応

5 施設の社会化（地域交流事業及び施設機能強化推進事業）

（1）地域交流事業

① 昭和53年の事業開始以来「けやき荘地域連絡協議会」を毎年開催し、地域の意向を反映させながら円滑に施設を運営してきたが、平成29年4月施行の改正社会福祉法の趣旨に鑑み、地域貢献の在り方を検討する。

② 西落合町会の一員として入所者と職員が共に町会行事（夏祭り、地域防災訓練、地域センターまつり、ラジオ体操、ごみゼロデー等）に積極的に参加する。

③ 近隣住民も対象とした地域公開講座を開催（年2回）する。

④ 落合福祉ネットワーク（落合つながるカフェ）に継続して参加する。

（2）ボランティアと実習生の受け入れ

① 地域住民の有志による「けやきプログラム」を実施（月平均8名）する。

② 地元目白大学をはじめ福祉士養成校からの実習生を積極的に受け入れる。

（3）福祉事務所や医療機関向けの施設説明会を開催（年各1回）するほか、民生委員等の関係機関の視察を随時受け入れる。